



写真1 広鋤末製品・泥除具末製品・鋤末製品など

写真1は出土した農具を集めたものです。①～⑥は広鋤末製品で、うち4つは護岸水路

弥生時代の祭器としては先月号で紹介した銅鐸^{どうたつ}など青銅器が有名ですが、実際の生活や生産活動に深くかわって用いられた道具は木器、土器、石器、そして鉄器です。

9月号で紹介した鴨都波遺跡^{かもつば}第12次調査の紀元0年から1世紀ごろの護岸水路では、埋没してもなお地下水が豊富に流れていたため、木器も良好な状態で遺存していました。

また、護岸水路の中からはさまざま

の途中に設けられた集水マス（写真2）の内部から、重ねられた状態で発見（写真3）されました。この集水マスは突然の洪水によって埋没してしまうのですが、それを目の当たりにしたのであるう、この弥生農具製作者の気持ちを考えると、同情を禁じ得ません。

さて、集水マスはその名の通り水を溜めるための施設で、農具をこのように入れておくのは、鋤や鋤^{すき}のように土を掘る道具は、堅くて丈夫であることが求められるため、特にアカガシを選んで作られますが、自然に乾燥させると表面のひび割れが進むために、一度、水に浸け込む必要があったからです。なお、この集水マスからは、鋤を打ち下ろしたときに後方への土や泥の跳ね上りを防ぐための泥除具^{どろよけぐ}の未製品（写真1の⑦・⑧）も出土しています。

ふるさと御所 文化財探訪

其の八

弥生時代〈4〉

道具① 木器

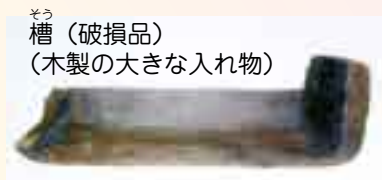
生涯学習課文化財係
☎内線696



写真2 集水マス 全景（西から）



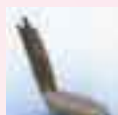
写真3 集水マス内の広鋤末製品の集積



槽（破損品）
（木製の大きな入れ物）



臼



杓子末製品



匙（破損品）



玉杓子末製品



三連の広鋤末製品出土状態
（二連から四連のまゝ効率よく
原材から削り出す）



組み合わせ式の木製高杯（杯部）

な木器が出土しています。写真1の⑨は完成した広鋤の破損品で、柄が装着されたままの状態出土しました。柄には曲げの力に対して粘り強いサカキが用いられ、写真1の⑩の鋤（スコップ）には堅牢なアカガシが用いられています。このように樹種ごとの特性を熟知して木器を製作する様子は、弥生文化が既に完成された状態で日本列島にもたらされたことの証左の一つと言えるでしょう。このほか、弥生人の生活の豊かさを示すようなさまざまな木器を写真（左）で紹介しておきます。



ふるさと納税

ありがとうございました

****10月分****

♥件数 9件
※H20年度累計 20件
♥寄附金額 201,300円
※H20年度累計 848,300円

小惑星アポフィスが今から28年後の2036年に地球に衝突する確率が450分の1あるらしい。映画「アルマゲドン」が現実になるのだろうか？人々が累々と築き上げた財産や名誉もすべて一つの災禍に滅却されるのだとすれば、些細なことの一喜一憂している私たちの人生とは、いかなる価値を持つのだろうか。…（久）

編集後記